

## 連携し減災に貢献を

道設備設計事務所協会が新年交礼会

北海道設備設計事務所協会は24日、ポールスタ―札幌で新年交礼会を開き、221人の参加者が2019年の協会のさらなる発展を願った。

最初に種市由夫会長は、北海道胆振東部地震を含め災害の多い年だったと振り返り「設備技術士として連携を取りながら減災などに貢献していかねばならない。今後とも会員の皆さんの協力を得ながらまい進していきたい」とあいさつした。

来賓では北海道開発局の沢永好章営繕部長が、昨年の胆振東部地震に触れながら「防災機能の強化、庁舎など建物の長寿命化に力を入れなければならないと思う。今後とも

皆さんの協力を」と呼び掛けた。

道建設部の橋谷敏雄建

たさらなる発展を誓い合っ

築局長は胆振東部地震発生時に、同協会と東北6県の設備設計事務所協会から道に災害見舞金を送られたことに感謝を述べるとともに今後の協力を求めた。札幌市の佐藤博都市局長は、先日発表された19年度予算案に触れながら「設備関係については、18年度規模の予算を確保できたと思う。今後とも協力を」と呼び掛けた。

この後、北海道建築士事務所協会の庄司雅美会長が乾杯の発声をし、関係者が新年の一層の繁栄を願った。

